

国士館を支えた人びと

国士館維持委員会(大正10年7月発足)



栗野慎一郎 (1851-1937)
福岡出身。外交官。日露戦争開戦にあたって対露交渉に尽力。米・伊・仏
国駐在行使などを歴任。維持委員会の発足より会長を務めた。



頭山 満 (1855-1944)
福岡出身。玄洋社を統率し、アジア主義の立場で国家主義的運動を行う。
在野の立場から各方面に多大な影響を与えた。同郷の縁から柴田徳次郎を
助け、青年大民団発足時に顧問就任。国士館の創立時より、募金活動のほ
か多方面で支援し、維持委員会では発足当初より委員。高等部では講師も
務め、内外で国士館を支えた。



野田卯太郎 (1853-1927)
福岡出身。号は大塊。政治家。立憲政友会の重鎮として活躍し、通信・商
工大臣などを歴任。大正8年財団法人国士館設立に際し顧問に就任し、募金
活動などに尽力。高等部講師も務め、維持委員会発足当初より委員となる。



根津嘉一郎 (1860-1940)
山梨出身。実業家、政治家。東武鉄道・館林製粉・日清製粉などに出資。
武蔵高等学校(現武蔵大学)の創設など教育・文化事業にも貢献。大正8年
財団法人国士館設立に際し評議員に就任、維持委員会発足時より委員。



田尻稻次郎 (1850-1923)
鹿児島出身。号は北雷。経済学者、法学者、政治家。専修学校(現専修大学)
創設者の一人。東京市市長も務めた。大正6年の国士館創立時より、随時
講師。大正8年に財団法人国士館設立に際し顧問となり募金活動に尽力し、
高等部講師も務めた。(写真: 専修大学大学史資料課所蔵)



渋沢栄一 (1840-1931)
埼玉出身。実業家。国立銀行条例の起草などで活躍後、多数の近代の企業
の創設と発展に尽力。また、多くの実業学校の創立・発展に努めた。維持
委員会発足会が渋沢邸で行われたことを機に、大正11年に委員に加わる。
以降、多額の寄付に加え、委員会などの開催には邸宅を提供するなど国士
館を支えた。



徳富猪一郎 (1863-1957)
熊本出身。号を蘇峰。ジャーナリスト。民友社、国民新聞社を設立。平民
主義、国家主義を表明。生涯にわたり執筆活動を行った。徳富蘆花は弟。
維持委員には大正14年頃に加わるが、国士館創立時より講師を務め、専門
学校では史学を講義するなど、長く国士館を支えた。



中野正剛 (1886-1943)
福岡県出身。ジャーナリスト、政治家。東方時論社社長。東方会を結成し、
東条英機内閣の倒閣運動を行うも失敗し自殺。国士館創立当初より講師を
務め、維持委員会には大正15年頃より参加。その後も国士館でたびたび講
演を行った。



麻生太吉 (1857-1933)
福岡出身。実業家。九州地方の石炭鉱山事業に着手し、麻生商店を経営。
電気・鉄道分野へも出資。大正6年国士館創立時より多額の資金援助を随
時行い、大正15年頃より維持委員会委員。戦後、孫太賀吉も「国士館大学
維持委員会」発足時より維持員を務める。(写真: 麻生所蔵)



服部金太郎 (1860-1934)
東京出身。実業家。服部時計店、精工舎を創設。国産時計製造業として「セ
イコー」ブランドの基礎を確立。赤十字社をはじめ各種社会事業にも貢献。
大正11年より国士館に出資し、昭和2年頃には維持委員会委員に加わる。



井上準之助 (1869-1932)
大分出身。政治家、財政家。日本銀行総裁を歴任。貴族院議員となり、複
数の内閣で大蔵大臣を務める。血盟団事件で暗殺される。昭和2年頃より
維持委員会委員。資金面での様々な便宜を図った。

国士館は創立以来、政界、財界、教育界、新聞・言論界などの
他方面より、国士館教育の趣旨に賛同したさまざまな人びとの支
援によって支えられてきました。
国士館支援の代表的な会である「国士館維持委員会」と「国士館
大学維持委員会」の支援者を紹介します。

国士館大学維持委員会(昭和27年8月発足)



小坂順造 (1881-1960)
長野県出身。実業家、政治家。信濃銀行取締役、長野商業会議所会頭など
歴任。その後衆議院議員、貴族院議員。国士館の再建にとまない「国士館
再興会議」に参加。維持委員会発足時に会長を務める。



緒方竹虎 (1888-1956)
山形県出身。ジャーナリスト、政治家。福岡県で育ち、朝日新聞入社、
その後主筆となる。戦後、衆議院議員となり、副総理、北海道開発庁長官
などを歴任。国士館創設時から関わり「国士館維持委員会」にも参加。昭和
27年「国士館再建趣意書」を執筆、国士館再建に尽力。国士館顧問総代を務
め、大学創立に尽くす。現在、大講堂内に肖像を掲額する。



石橋正二郎 (1889-1976)
福岡県出身。実業家。日本足袋株式会社を設立し、後にブリヂストンタイ
ヤ株式会社を創設。石橋財団を設立し、教育・文化事業へも積極的に支援。
「国士館再建趣意書」に署名。維持委員会発足時より維持員となり支援。(写真:
㈱ブリヂストン所蔵)



出光佐三 (1885-1981)
福岡県出身。実業家。出光商会を設立、門司商工会議所会頭などを歴任。出
光興産株式会社を創業する。近代日本の石油産業発展に生涯を捧げた。「
国士館再建趣意書」に署名し、多方面で支援。維持委員会発足時より維持員。(写
真: 出光興産㈱所蔵)



椎名悦三郎 (1898-1979)
岩手県出身。政治家。官房長官、通商産業・外務大臣などを歴任。自由民
主党副総裁となる。「国士館再建趣意書」に署名。大学顧問。昭和37年頃
より維持員に加わる。大学発展に尽力し、多くの式典の折にも講演。



松野鶴平 (1883-1962)
熊本県出身。政治家。鉄道大臣、参議院議長などを歴任。日本自由党、自由
民主党の要職に就く。国士館創立期より支援し、大正8年の財団法人化に際し
評議員、「国士館維持委員会」の委員も務めた。戦後、国士館再建に際し多
方面で尽力、国士館の顧問総代。息子松野頼三も国士館評議員や維持員となる。



野田俊作 (1888-1968)
福岡県出身。政治家。戦後、福岡県知事・沖縄県知事を兼務、戦後処理に
あたる。昭和2年より財団法人国士館評議員、昭和6年より理事。父卯太郎
逝去後「国士館維持委員会」にも参加。戦後も国士館再建に尽力し、維持員
会に参加。国士館顧問として長く国士館を支えた。



倉田主税 (1889-1969)
福岡県出身。実業家。日立製作所に入社後、社長就任。戦後、日立グルー
プ発展の基礎を築き、国産技術の確立に貢献。維持委員会発足時より維持員
となり、資金面などで支援した。



貝島太市 (1881-1966)
福岡県出身。実業家。貝島炭鉱株式会社を創設し、九州地方を中心とした
炭鉱業の発展に尽力。貝島育英会を創立し教育支援も積極的に行った。「
国士館維持委員会」にも加わり大正14年より委員。戦後も「国士館再建趣意書」
に署名し支援した。維持委員会発足時より維持員。(写真: 福田康生氏提供)



安川第五郎 (1886-1976)
福岡県出身。実業家。父の興した明治鋳業を発展させ、安川電機製作所を設
立。九州電力会長、石炭庁長官、日本原子力発電初代社長などを歴任。維
持委員会には昭和30年頃より加わる。昭和37年頃には国士館顧問総代も務めた。
戦前父敬一郎も「国士館維持委員会」の委員として資金面などで支援を行った。



石井光次郎 (1889-1981)
福岡県出身。政治家。東京朝日新聞に入社、その後専務取締役。戦後、衆議
院議員となり、副総理、運輸・通産・法務大臣、衆議院議長などを歴任。昭和
30年頃より国士館を支援し、昭和40年頃には維持委員会の会長を務めるなど大学
発展を支援。昭和48年の創立者柴田徳次郎逝去時には葬儀委員長を務めた。



岸 信介 (1896-1987)
山口県出身。政治家。衆議院議員。農商務官僚から商工大臣。戦後、自由
民主党幹事長、外務大臣などを歴任。第57代内閣総理大臣。昭和33年より
国士館顧問として募金活動などを支援。維持委員会維持員には昭和37年頃
より加わる。